



伝統器具使い

小学生が繭から生糸取り

(神川町)

初めての生糸取り体験を楽しむ子どもたち

神川町立青柳小学校(澁谷光男校長)の4年生児童が1日、繭玉からの生糸取りを体験した。同校では毎年、かつての町の主要産業であった養蚕についての学習を行っている。5月に地域の金屋飼育所から提供された蚕を、4年生たちが毎日エサである桑の葉をあげ、ケージの掃除をするなど、飼育してきた。生糸取り体験は、元同校校長の高橋八夫さんが講師を務めた。実家が養蚕農家だった頃に使っていた糸を巻き取る道具、座繰り機を持ち込み、子

どもたち一人ひとりに生糸取りを体験させた。子どもたちは糸が巻き取られる様子を興味深そうに見つめながら、取っ手をくると回していった。飼育を通じて、最初は苦手だった蚕に愛着が出てきたという。繭は、生糸に触れ、「繭と話していた。高橋さんは「古里の昔を教えることが、郷土を愛することにつながってほしい」と話していた。

どもたち一人ひとりに生糸取りを体験させた。子どもたちは糸が巻き取られる様子を興味深そうに見つめながら、取っ手をくると回していった。飼育を通じて、最初は苦手だった蚕に愛着が出てきたという。繭は、生糸に触れ、「繭と話していた。高橋さんは「古里の昔を教えることが、郷土を愛することにつながってほしい」と話していた。